

### 防災教育研修会に参加して

防災教育研修会は、栃木県連合教育会が教職員向けに続けている研修です。

視察や現地の方々からの声を聞くことで、被災時の状況や思いを知り、復旧復興の現状や展望等を共感的に受け止めながら教職員の防災指導に係る意識を高めることが主なねらいです。

今回は、保護者の方々に参加の幅を広げていただきましたので、本連合会も渡邊会長を始め、8名が参加しました。第一班は、8月2日、第二班は4日でした。栃木県教育会館や矢板市片岡公民館などから出発し、福島県富岡町、楡葉町、いわき市小名浜を目的地とした研修でした。

私の目に浮かぶ東日本大震災は、勤務していた小学校の集団下校がある金曜日でした。下校見守り隊の服を着て校庭に整列した子どもたちのもとへ向かう時起こりました。

余震が何度も続き、下校させるのをためらっている中、続々と子どもたちを迎えにくる地域や保護者の方々の姿を見て、感謝の気持ちで一杯になったことも忘れることができません。

4月に入って、被災された



楡葉町の天神岬にて、復興の過程を臨む

地域や学校に何かできることはないかと教職員に相談しました。その折に地域に応援ボランティアの方がいらっしやるのを知りました。早速児童会を中心に、手紙を書き、応援物資を送る活動を始めました。大きなことはできませんが、そのときできるだけを少しでもですが何とか協力できたかなと思います。

その後、毎年のように石巻市、女川町、南三陸町、陸前高田市など東北地方を訪れ、復興の姿を見させていたただきました。今回、新たに福島県を訪れ、再生に取り組み姿の一部が見せていただきました。自分の目で見る、知る大切さを続けていきたいと強く思いました。

防災教育研修会は今後も続け、保護者の参加数を増やす予定と聞いています。皆様も参加を考えてみてください。皆様に  
(橋本和英)

### PTA広報紙 編集講習会

平成29年6月21日(水)栃木県教育会館にて、講師に下野新聞社編集局記者の萩原正則氏と、生活応援情報マガジントチベ編集長の菊池京子氏を迎え「PTA広報紙編集講習会」が開催されました。あいにくの雨模様にも関わらず会場は、小中学校の広報委員約140人の参加者で賑わいました。

午前は、全員を対象とした萩原氏による「PTA広報紙づくりの要点」と題する講話が行われ、午後からは、編集経験の有無に応じた班別実習を行いました。

午前の萩原氏による講話では、14ページにわたる資料をもとに、初心者にも分かりやすく穏やかな口調で、PTA

講師の萩原正則氏

講師の萩原正則氏



講師の菊池京子氏

「今日だけで終わりということではなく、1年を通してのアドバイザーになります。これから編集作業をしていく上で、疑問点が浮かんだ場合は、いつでも問い合わせてください」と、ご自身のメールアドレスをホワイトボードに書いてくださいました。心強いサポーターの登場に、参加者は、驚きと喜びの表情を浮かべていました。

午後には、萩原氏が経験者を対象に、菊池氏が未経験者を対象にして、班別実習に移り、編集未経験者が集まった小ホールでは、5〜8人の12グループに分かれ、実践的な編集ノウハウを学びました。その中で講師の菊池氏は、「皆さんも縁あって広報と巡り

合ったので、楽しんでほしい。1年目に楽しめた人が2年、3年と広報を続け、卒業するまで広報に携わってほしい」と情熱豊かに話していました。

菊池氏は、参加者が今何を知らたいか、あるいは何か困っていることは無いかを問いかけて、一つ一つ丁寧に解説しました。なかでも、写真撮影の場面では、撮影時の姿を体現してみせるなど、臨場感あふれる講習会となりました。

参加者と同じくPTA活動を経てきた菊池氏だからこそ、その活動を形として残せる広報委員のやりがいや素晴らしさをダイレクトに参加者の心に届けていました。

回を追うごとにパワーアップする講習会と菊池氏に会場は釘付けになっていました。  
(柿沼麻梨子)



参加者の意見発表のようす